

一般会計決算に対する討論

令和4年度一般会計決算は、9月定例会最終日に認定されました。この議決に先立ち、同決算に対する討論が行われ、4人の議員から賛成意見が、1人の議員から反対意見がありました。その概要は次のとおりです。

賛成

●令和4年度決算では、物価高騰の影響を受けた市民などに対し、補正予算で時期を逸することなく、支援事業を実施したほか、市総合計画2030に掲げる基本方針に基づき、継続的に成長発展するまちづくりの実現に向けた各事業を着実に進めたものと評価する。歳出に關し、3つの基本方針に基づき意見を述べらる。「育てる」では、待機児童解消に向けた施策として保育士の雇用環境の改善を図るため、新規雇用の経費や人件費への補助事業を実施され、効果的な取り組みであったと評価する。「稼ぐ」では、新たなビジネスモデルの構築やデジタル化の推進などに取り組み企業に対し、中小企業強化推進補助金を交付したことで、稼ぐ力を高めることができたことと評価する。補助を受けた企業が事業内容を積極的に公開したこと、今後の産業活性化に大いに期待する。「支える」では、デジタル技術を活用したICT利用事業が開始され、システム入力業務の自動化や音声の文字起こし化など、自治体業務を効率化する方策を実施した。今後は、デジタル化をさらに加速させ、市民サービスの質の向上を図ることを期待する。活力と魅力に満ちた綾

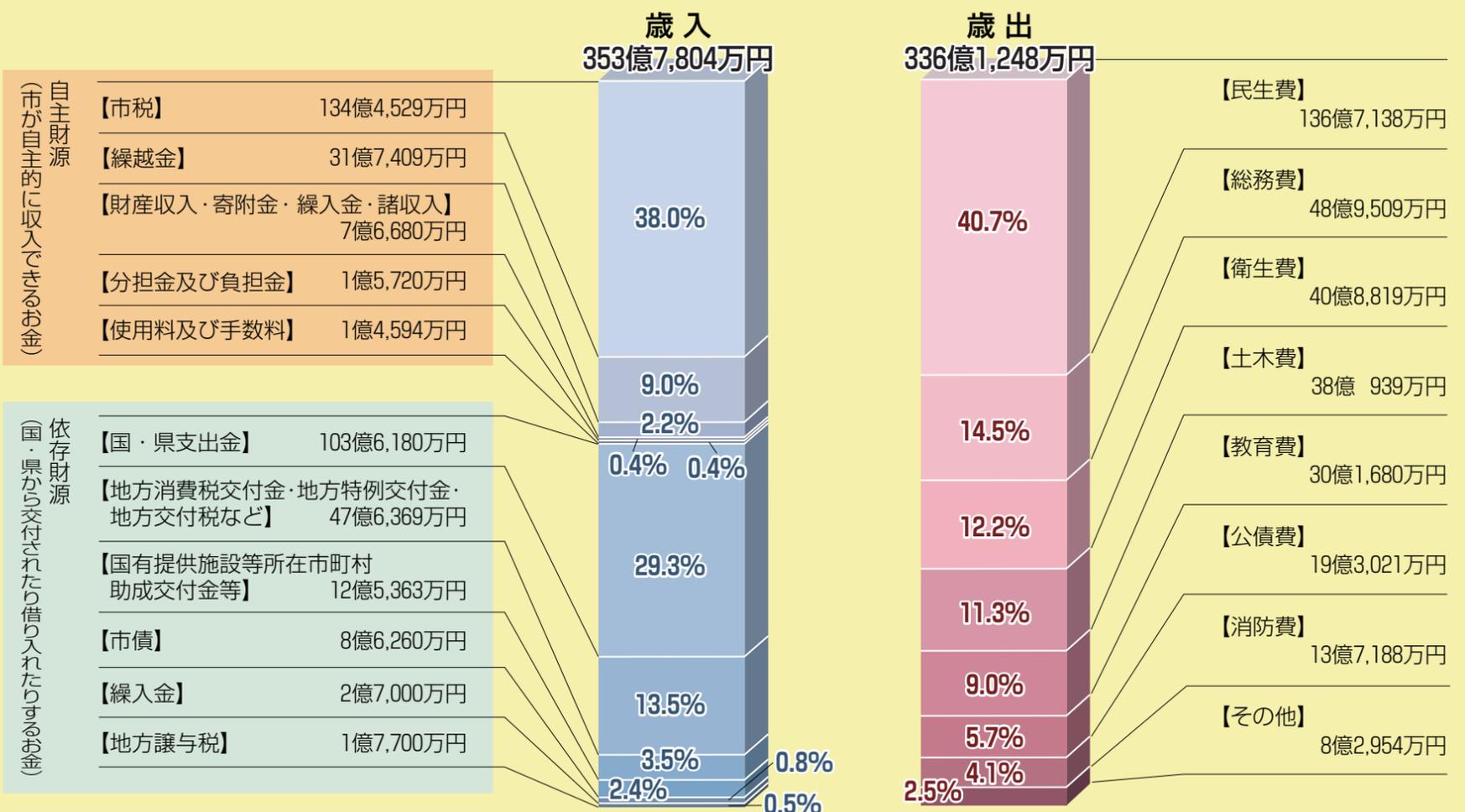
●令和4年度決算の歳出事業を市総合計画2030に沿って評価する。「育てる」では、外国人市民への一元的情報提供として市民ウェルカムパットの配布を行い、相談窓口には通訳コールセンターを設置し、日本人市民との相互理解や住環境の整備が進められたと評価する。中学校学び舎支援事業では、中学校5校で、平日と長期休業期間中に、参加を希望する生徒に学習支援を行い、自主的な学習に対する意識を高め、学習力の向上につながった。「稼ぐ」では、道の駅の整備で、新たな計画地を決定し、周辺道路の交通の影響や駐車場配置の検討など関係機関との調整が進められた。新たな交流人口を受け入れ、にぎわいの創出に加え、稼ぐ施設として存在感が示せるよう大いに期待する。「支える」では、公共施設のWi-Fi環境整備は、児童・生徒の学習端末や青少年の居場所の利用も考えられ、地区センターなどへの設置は、必要不可欠な施策であると大いに評価する。今後、高齢化がさらに進み、地域での介護支援の拡充も必要となり、民生費は確実に増加する。新たな財源確保に、インターチェンジ

を活用した活性化策を進めているが、事業を確実に実行し、「育てる」「稼ぐ」「支える」まちづくりにまい進することを希望し、本決算に賛成する。(あやせ未来会議)

●令和4年度決算は、財政の健全化判断比率に赤字はなく、資金不足比率などの指標も国の基準を下回り、健全な財政を維持したと評価する。歳出の款別に意見を述べる。総務費では、コロナ禍で中止していた、あやせ大納涼祭を開催した。市民、地域交流に活気が戻るきっかけとなり、さらなる地域の活性化につながることを期待する。民生費では、交付金を活用し、住民税均等割のみ課税世帯への臨時特別支援事業など、物価高騰の影響を受けた生活困窮者等に対象を絞り、集中的かつ直接的な支援であったと評価する。商工費では、A B Fを3年ぶりに開催し、地元グルメ17店舗の出店に加え、市内外や米海軍のグループによる演技など、観光資源を魅力的に発信する場となり、地域経済の活性化が図られた。土木費では、光綾公園の多目的フィールドと駐車場が完成し、スポーツやイベントが活発に行われており、今後の計画的な再整備を要望する。教育費では、小・中学校体育館空調設備設置事業で、中学校5校の設計を行った。災害時の避難所となる体育館の熱中症対策として、全小・中学校の設置完了まで計画的に進めることを要望する。今後も地域の課題や市民ニーズを的確に把握し、積極的に施策を実施するよう要望し、本決算に賛成する。(八明党)

●令和4年度は、3年度に続きコロナ禍での市政運営であり、物価高騰が進んだ年でもあった。本決算にはおおむね賛成するが、3点意見を述べる。1点目の早川中央土地区画整理事業では、巨大な物流倉庫の建設に当たり、生活環境の悪化や交通安全が心配されるため、近隣住民による建設の反対運動が起こり、市政に対する不信や不満が高まった。地権者の意向のみを聞き、住民の生活環境の悪化に目を向けなかったため、市政運営に禍根を残す結果となった。今後、土地区画整理事業を進める際には、近隣住民の声を聞いた上で、市が組合と住民との間に入り調整する必要があると考える。2点目の中心市街地の再編では、現商業施設の運営会社が契約の継続を申請したにもかかわらず、地権者が断り、新たな会社を優先交渉権者とした。継続を望む多くの市民の声があったが、地権者が断った明確な理由が明らかにされていない。新たな会社が提案した図案を見ると、現商業施設と比べ、便利になるとは思えない。土地の利用を優先するのではなく、市民の利便性を優先する再編を求めたい。3点目の厚木基地では、5年1月の駅伝競走大会で初めて基地内を周回コースとした。利用するのではなく、一日も早い基地の返還が必要である。

令和4年度決算状況(一般会計)



表中に記載の数値は、表示単位未満を四捨五入しています。金額、構成比などの数値は、個々の積み上げと合計額が一致しない場合があります。